

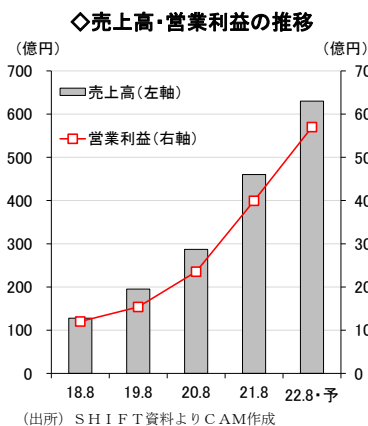
企業ニュース SHIFT

(東証1部 : 3697) <https://www.shiftinc.jp>

作成者: 村上大志

ソフトウェアテストのリーディングカンパニー

2005年設立。「すべてのソフトウェアにMade in Japanの品質を」をコーポレートビジョンとする、ソフトウェアの品質保証・テストの専門企業。ソフトウェアテストのコンサルティングをはじめ、テストエンジニアの適性を評価する検定制度「CAT検定」や、テスト実行の生産性を評価するテスト支援ツール「CAT」などを提供する。当社推定では、日本のソフトウェアテスト市場は5.5兆円規模で、その内アウトソースされる比率は約1%にとどまっている。同市場は脅威となる競合がないブルーオーシャンで、シェア獲得が進んでいる。中期経営計画「SHIFT1000」では、25.8期の売上高1,000億円、エンジニア数10,000人などを目指している。21.8期のセグメント別売上高構成比は金融、流通、製造、通信業などのエンタープライズ市場93%、ゲーム関連のエンターテインメント市場7%。



コロナ禍から順調に回復、高成長が継続

21.8期の連結業績は売上高が460億円、前期比60%増、営業利益が40億円、前期比70%増。上期は新型コロナウイルスの感染拡大による影響で稼働率が低下したが、下期にかけて順調に回復し、売上高は会社計画比2%、営業利益は同17%上振れた。新規M&Aなど戦略投資を実施しつつも人件費など販管費のコントロールが奏功し、営業利益は拡大した。

22.8期の会社計画は売上高が630億円、前期比37%増、営業利益が57億円、同43%増。営業職の活動量の改善により営業効率が上昇し、新規顧客の獲得と既存顧客の規模拡大が進んでいる。事業拡大の要となるエンジニアの採用や教育も順調で、エンジニア単価が上昇している。ソフトウェアテストを足掛かりにDX関連のサービスやコンサルティングなども手掛け始めている点もポジティブに捉えられよう。21.8期の決算説明会では、単体のオーガニック成長、グループ会社の統合効果、M&A・資本業務提携という3つの成長要素が上手く回っていることから、中期経営計画の25.8期の売上高1,000億円は23.8~24.8期に達成できる見通しを示している。

[株価動向・投資判断]

営業力の強化や人材の採用・育成などが奏功し事業拡大が続いている。中期経営計画の前倒し達成も見えてきており、今後も高成長が期待される。

<3697 SHIFT 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.8	28,712 (47)	2,353 (53)	2,535 (64)	1,648 (70)	104.5	0.00
21.8	46,004 (60)	3,994 (70)	4,736 (87)	2,818 (71)	162.7	0.00
22.8 予	63,000 (37)	5,700 (43)	5,700 (20)	3,700 (31)	211.1	0.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/22)	23,770 円
年初来高値 (高値日)	29,040 円 (21/9/27)
同 安値 (安値日)	11,420 円 (21/3/9)
予想 P E R (22.8 予)	112.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,277.4 円
P B R	18.61 倍
予想配当利回り	0.00 %
(1株当たり配当金年0.00円)	
R O E (21.8)	17.1 %
発行済み株式数	1,765 万株